

創立147周年

1月号（令和3年1月6日発行）



kurosyou-dayori

鉄小だより

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kurogane/> 横浜市立鉄小学校

明けましておめでとうございます

校長 森 愛子

昨年は、コロナ禍における変更続きの教育活動及び体育館改修工事に対してご理解ご協力いただき、誠にありがとうございました。このような状況下にあっても、保護者・地域の皆様の変わらぬご厚情のおかげで、運動会・ミニ収穫祭・校外学習を始めとして、子ども達はできる範囲での活動に精一杯取り組み、健やかに過ごすことができました。

今年は、丑年です。牛のようにゆっくりとであっても、着実にコロナウィルス感染症の拡大が抑えられるような動きが進み、子ども達のがのびのびと声を上げて歌い笑いあえる日に一步一步近づけることを願っています。そのためには、これまで同様の感染防止への取組を地道にやり続けることが重要です。健康観察・体調管理へのご協力も引き続きお願いいたします。

12月4日に4・5年生日帰り体験学習を行いました。4年が訪れた「本間寄木細工美術館」で出会った伝統工芸士 本間 昇さん(89歳)からこんなお手紙をいただきました。

『寄木の体験に来てくれてありがとう。その時、女生徒の質問の意味がわからず、ごめんね。あとで思うに「本間さんは自分の若い時の事をどう思っていますか」かな。そうでしたら、素晴らしい質問と思います。そう考えて書きました。』

私は16歳で寄木の仕事に入りました。朝は朝食の前から仕事、お母さんが「ごはんが出来たよ」で朝食を取り、すぐ仕事。昼食をすませば、すぐ仕事。夜は夕食のあと残業はおそい時は23時まで。休みは1日と15日の2日。それがいやとは思いませんでした。働くのは当たり前と思っていた。父親が師匠で厳しく指導された。涙を流したこともあった。今は若い時に身につけた寄木造りの技術を生かして新作を作っています。毎日が楽しいです。』

本校の学校目標「人とかかわり 創り出す 笑顔あふれる鉄小」にある『人とかかわり』の目指すところはまさにこのような出会いの場で、子ども達が知識・技能を学ぶだけでなく、その方の人となりや人生に触れて、人としての在り方や心のもち様を学ぶことにあります。「一生懸命寄木細工のことを勉強して行ったから優しくしてもらえた」と嬉しく思った子どもも「大変そうなことなのに、今は毎日が楽しいなんて不思議だな」と思った子どももいると思いますが、いつか「一つのことをやり通すことの価値」に気づいてくれることと思います。鉄の町の中でも多くの方と出会い、学んでいます。校外学習では更に視野を広げ、好奇心旺盛に学ぶことができます。来月は6年生の修学旅行があります。例年とは違う冬の日光で、どんな出会いがあるのか楽しみです。コロナウィルス感染拡大防止に配慮しつつ、今年度残り三ヶ月を、卒業・進級への希望をもって子ども達が意欲的に学習できるように教職員一同頑張ります。